

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援事業所でのひら 野洲市三宅		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 10日		～ 2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年 2月 15日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コミュニケーションが取れ、ルールを理解できる児童が多いので作業療法士(常勤)を中心としたアナログゲームを使った遊びや、ルールを決めて体を動かすゲームなど集団療育を行うことができています。	できる限り簡単で分かりやすく、複数の児童と一緒にコミュニケーションを取りながら、ルールに従って楽しめるゲームを選んでいきます。	口頭だけではルールを理解してもらえないこともあるので、視覚的にも分かりやすいよう、ルールの説明書を作り、まずはやって示し、参加しやすいようにしたい。
2	臨床心理士によるSST(ソーシャルスキルトレーニング)を行っています。場所や状況に応じたマナーや性教育・対人関係など社会生活を営んでいくために必要なスキルをみんなで考え、学んでいます。	全員が集まる終わりの会の中で、イラストなどを使用して視覚的にも分かりやすく、クイズ形式でみんなが参加し、できるだけ短時間でまとめるように気を付けています。	スマートフォン使用時のマナーや、闇バイト・特殊詐欺など時世に合わせた題材も積極的に取り上げています。
3	自立度の高い中高生がご利用者様の中心なので、パソコンの利用、公共交通機関を使った遠方へのお出かけや、釣りやサイクリングなど低年齢の児童では難しい活動にも積極的に取り組んでいます。	「行ったことがない」、「したことがない」など初めての体験の提供や、公共交通機関の利用方法など活動を通じて学んでもらいたいと思っています。	ご利用者様の「やってみたい」「行ってみたい」の声を大切にしたイベント企画をしていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベント費など保護者様の実費負担が増えてきていること。	外食費、遠方への交通費、施設入場料や使用料など、実費のかかるイベントが多くなっているため。	インターネット等で情報収集し、なるべく安価で楽しめるイベントを検討していきます。
2			
3			